

授業科目 (ナンバリング)	和漢薬概論 (NC306)			担当教員	宇都拓洋		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
医療現場において漢方薬の投与数が年々増加の途を辿っている現状に伴って、漢方薬の服薬指導や疑義紹介の件数が増加することが容易に予想される。これらに対処していくための漢方薬に関わる基礎知識と医療現場において活用できる知識を蓄積し、漢方薬領域において薬剤師の任務を全う出来るだけの実力をつけることを目標とする。							①②⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1) 漢方薬配合生薬の基原植物について述べるようになる。 (2) 漢方薬の適用、漢方薬配合生薬の役割、漢方薬の副作用等を説明できる。				定期試験 確認試験	80% 20%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・評価は確認試験と定期試験を用いて行う。 ・確認試験は「代表的な漢方薬の適応となる症、症状や疾患、配合生薬の役割」を範囲とする。 ・全講義時間の3分の1を超える欠席のあった学生は、定期試験の受験資格を喪失する。 ・講義中に行う復習問題、確認試験、定期試験は、解答をポートフォリオで示すことによりフィードバックする 							
授 業 の 概 要							
本講義では薬局方に収載されている漢方薬を中心に、関連処方を教科書の順に進め、処方への適用や配合生薬の種類等を学習する。また、配合される個々の生薬についても「生薬学Ⅰ」で学習した項目を復習し、漢方の全体像を理解するよう努める。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：「現代医療における漢方薬（改訂第3版）」日本生薬学会監修、南江堂 参考書：「パートナー生薬学（改訂第3版）」竹谷孝一/木内文之/小松かつ子編集、南江堂 指定図書：「NHK きょうの健康 漢方薬事典 改訂版」嶋田豊監修、主婦と生活社							
授 業 外 に お け る 学 修 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と							
<ul style="list-style-type: none"> ・事前に次回の講義内容を指示するので、教科書を読んで予習しておくこと。 ・講義後、オフィスアワー、メール等で積極的に質問を行って欲しい。 ・薬用植物園や生薬標本を自分で観察し、講義で扱った生薬に対する理解を深めて欲しい。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習	到達目標番号*
1	漢方医学総論	漢方医薬学の最近の動向や現代医療の中の漢方薬 漢方医学の歴史	p 1～2 p 10～12	747
2	漢方医学の理論・診断 ①	漢方医薬と西洋医学 漢方薬と民間薬、西洋薬 医薬品と食品の区分	p 3～9	747, 750,
3	漢方医学の理論・診断 ②	病気の状態を漢方医学的に把握し証と漢方処方 の確定の方法	p 15～33	748, 751
4	本草学・漢方薬に用い る生薬	本草学とは 修治が施されている主な生薬 漢方薬に用いられている生薬の気味と薬能	p 13～14 p 35～41	749
5	漢方製剤の種類と剤 形・原料生薬の流通	漢方製剤の種類と剤形 原料生薬の現状と問題 漢方薬の品質管理	p 2～3	747
6	重要な漢方処方①	「桂枝湯類」	p 44～47	749, 752
7	重要な漢方処方②	「麻黄剤」	p 47～50	749, 752
8	重要な漢方処方③	「柴胡剤」「瀉心湯類・苓連剤」	p 51～56	749, 752
9	重要な漢方処方④	「大黄剤・承気湯類」	p 56～59	749, 752
10	重要な漢方処方⑤	「苓朮剤」「附子剤」「人参剤」	p 59～65	749, 752
11	重要な漢方処方⑥	「地黄剤」「石膏剤」	p 65～70	749, 752
12	確認試験	1～11 回までの確認試験	1～11 回までの 講義内容	749, 752
13	重要な漢方処方⑦	「当帰芍薬散関連処方と駆瘀血薬」「その他の漢方 処方」	p 70～76	749, 752
14	漢方薬の注意点	漢方薬の副作用 慎重投与を要する生薬	p 91～99	321, 754
15	漢方薬の新しい使わ れ方	漢方薬の新しい使われ方 現代医療における漢方薬の役割	p 101～135	747, 752, 753
16	定期試験			

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。